

# 専念寺通信

七月号 (No. 119)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



蒸し暑い夏がはじまりました。地方都市では豪雨による被害もたくさん出ています。みなさま、おかわりなくお過ごしでいらっしゃいますか？

## ☆盂蘭盆会

今年も、夏のお盆の季節がやってまいりました。7月といえば、7日の七夕、一年に一度、織姫と彦星が天の河をわたって出会う日を思い出します。そして13日から15日まで、こちらも一年に一度、

向こう側に行ってしまった人がかえってくる盂蘭盆会があります。お盆には、精霊棚（しょうりょうだな）を作り、野菜やそうめん、菓子などをそなえ、帰ってくる人のために入りの日に迎えの火をたき、明けの日には送り火をたきます。最近の都会では、落ち葉たきさえ消防署に禁止されていますので、この「迎え火」や「送り火」は実際にはできなくなってしまいました。京都の大文字焼きは壮大な、日本で一番有名な「送り火」と言えます。野菜にわらで脚をつけた動物を作る習慣もあります。牛や馬です。私たちの国は農耕民族でしたから、一番身近な親しい動物であったのでしょうし、また、

馬の脚の速いことにかけて、むこうがわにいる人にはやく来てくれるよう、そして牛の脚の遅いことを考えて、むこうがわに戻っていくときはゆっくりゆっくりと行ってください、という私たち「こちら側」の人間の思いが込められています。



## ☆新盆合同供養

ことは7月11日午前11時より、本堂にて新盆合同供養をとりおこないます。この一年間にお身内を亡くされたかたには先日お葉書でご案内させていただきました。電話でのご返答をお待ちいたしております。

☆写真は永供養塔の笹竹です。植えたときには、果たして根付くのかしらと思えるほど、細く弱々しかったのですが、ご覧のようにみごとに育ち、供養塔を両側から、きまじめな守り役のようにしてまもってくれています。入り口右にある小さな「寂静（じゃくじょう）」の石碑も撮影いたしました。寂静塔のあたりは、風が吹くと笹竹がさわさわと鳴り、夏の暑さを一瞬、わすれさせてくれます。みなさまもどうぞお墓参りの際にお立ち寄りください。笹の精気が身体にしみこむようです。

最後の写真はスタッフ手作りの墓地用雑巾です。行事のたびに少しずつ縫いためています。中央の文字は以前は「専」の漢字でしたが刺繍がむずかしく、最近では仮名の「せ」になっています。墓地使用後も洗濯して、庫裏の拭き掃除にまだまだ活躍します。

今年のお盆は平日に当たっており、住職は大学勤務でございます。

住職は戻り次第、玄関に出てごあいさついたしますが、現在修行中の娘婿と大黒とで3日間、朝から大玄関で皆さまをお待ち申しあげます。なにとぞよろしくお願ひいたします。

平成22年7月1日 大黒

